

広域ネットワークの利活用 の促進について

1. 広域ネットワークの利活用のあり方

提言の記載理由

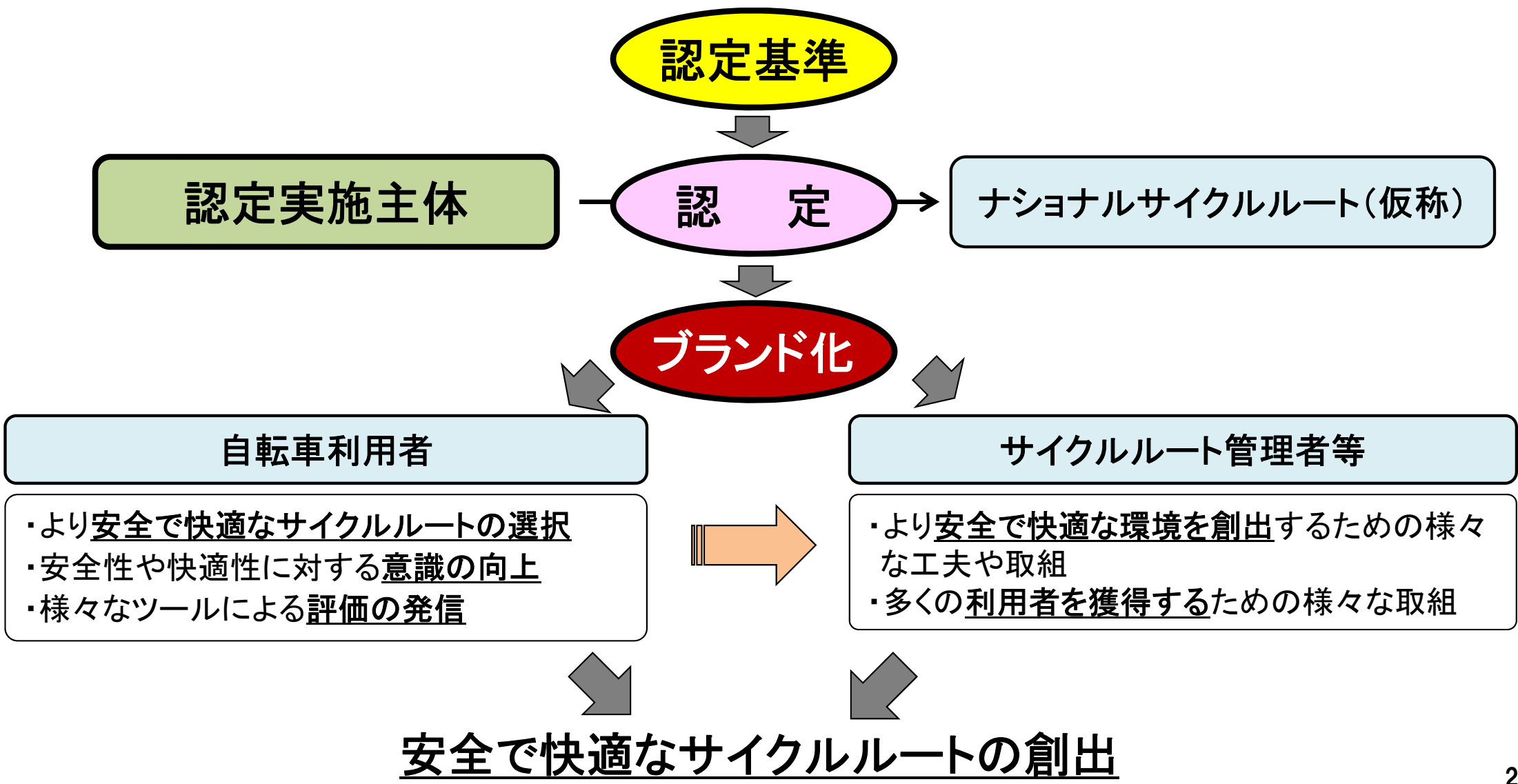
- サイクリングは、国民の健康増進、観光振興につながるものとして注目されており、近年、スポーツ自転車の販売台数が大きく伸びるなど、サイクリングブームが到来しており、国内のみならず、外国人観光客の人気を集めているサイクリング大会やサイクリングツアーも見受けられる。
- 一方で、いわゆるサイクリングロードには、歩行者と自転車利用者が分離されていないなど安全性や快適性の観点から課題があったり、案内表示の方法が地域ごとにバラバラであるなどわかりやすさに課題があったり、安心して自転車を駐輪したり、メンテナンス用の工具を借りられる場所がないなど、サイクリストをサポートする環境に課題があるなど、魅力的な自転車利用環境を創出する必要がある。

提言の記載方針(案)

- 国内外の自転車利用者があこがれる全国トップクラスのサイクルルートをナショナルサイクルルート(仮称)に認定・ブランド化し、安全、快適に、迷わず、安心して、サイクリングが楽しめる自転車利用環境を創出するとともに、サイクルルートの質の維持・向上に向けて継続的に取組むための組織を育成するための仕組みについて検討すべきではないか。

2. ナショナルサイクルルート(仮称)認定制度のイメージ(案)

○ 認定によるブランド化により、国内外の自転車利用者が、安全なサイクルルートを選ぶことのできる環境を整えるとともに、サイクルルートの管理者等による質向上のための様々な取組を促進することで、安全で快適な自転車利用環境を創出すること。



参 考 資 料

3. 認定にあたっての考え方(案)

【サイクルルートの基礎的要件(案)】

基礎的要件	水準
・サイクルルートの利用環境が整っていること	・サイクルルートとして一定の規模がある ・一定の間隔でトイレがある
・サイクルルートとして認識されていること	・マップ、HP等がある
・沿線に地域資源があること	・景観資源、自然資源、歴史資源、文化資源、 体験・交流資源、及び施設・情報資源のいずれ かがある
・サイクルルートの質を維持・向上させるための取組が 行われていること	・継続的に取組むための組織や仕組みがある

3. 認定にあたっての考え方(案)

【ナショナルサイクルルート(仮称)の認定要件(案)】

基本的なスタンス

海外からの利用者も含め幅広い年代層が、安全で快適に楽しく利用できるサイクルルートのうち、全国を牽引するルート。

①安全性

◆ 自転車通行空間の確保

例) 全長にわたって自転車利用者が迷うことなく走行できるよう通行位置の明示等がされていること、歩行者と自転車が分離されていること

◆ 自転車通行空間の連続性

例) 全長にわたってルートに途切れがないこと

◆ 注意喚起や案内標識等

例) 外国人にもわかりやすく、注意喚起や案内標識が統一して適切に設置されていること、マップが用意されていること

◆ 交通事故の実績

例) 過去5年間で交通事故発生件数が極めて少ないこと

◆ ルール・マナーの周知

例) ルール・マナーの周知を促しトラブル防止に取り組んでいること

3. 認定にあたっての考え方(案)

②快適性

◆ おもてなし

例) レンタサイクルの提供

宿泊施設(自転車を持ち込める宿等)

休憩施設(修理等サービス等)

飲食施設(安心して駐輪し食事ができる駐輪施設の設置等)

案内施設(外国語対応等)

案内機能(ツアーガイド等)

公共交通によるアクセス(サイクルトレイン等)

◆ 交通のアクセス

例) 自動車によるアクセス(駐車場)

鉄道・バスによるアクセス(輪行)

◆ 利用者の評価

例) アンケート結果(満足度等)

3. 認定にあたっての考え方(案)

③発展性

◆広域連携の実施

例)サイクリングの広域性に対応し、隣接する市区町村との広域連携に取り組んでいること

◆来訪客数の伸び

例)来訪客数が伸びており、今後も伸びる傾向にあること

◆外部評価の有無

例)利用者や住民等の意見を踏まえてルート of 改善を図る組織があること

◆将来計画の有無

例)安全で快適な利用環境を整える計画があること(路肩の拡幅及び改修、休憩施設の改修、交通規制の見直し、駐輪場や自転車等)